



大部っ子

大部小だより

令和6年1月

「やさしく かしこく たくましく」－自ら学び、ともに生きる児童の育成－

文責：学校長



【大部小公式HP】 <http://ono-edu.jp/obae/>

「干支」のお話

吉 岡 優

2024（令和6）年が始まりました。今年もよろしくお祈りします。始業式の朝、校門に立ちましたが、子どもたちの元気な挨拶で、新しい年がスタートできたことを幸せに思っています。朝の冷えた空気が、気持ち新たに身も心も引き締めてくれるような新年のスタート。冬休み中の校舎は静寂に包まれていましたが、やっと本来の大部小に戻った気がします。

さて、今回は「干支（えと）」のお話をします。干支は日本だけのものではなく、世界にあるって知っていましたか？大体は同じ動物ですが、国によって、その種類が違っているのが面白いですね。（下表）

日本	子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥
中国	鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、狗、猪（豚）
韓国	鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、狗、猪（豚）
ベトナム	鼠、 <u>水牛</u> 、虎、 <u>猫</u> 、龍、蛇、馬、 <u>山羊</u> 、猿、鶏、犬、豚
チベット	鼠、牛、虎、猫、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、豚
ブルガリア	鼠、牛、猫、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪
インド	鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、 <u>ガルダ</u> 、犬、猪
ベラルーシ	鼠、牛、虎、猫、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、豚
ロシア	鼠、牛、虎、兎、龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪



これは干支を使い始めた中国が、[シルクロード](#) を通じて多くの国と交易していたことが大きな理由で、さらに、「[モンゴル帝国](#)（チンギス・ハン）」の影響が大きかったとも言われています。モンゴル帝国は、西は東ヨーロッパ、アナトリア（現在のトルコ）、シリア、南はアフガニスタン、チベット、ミャンマー、東は中国、朝鮮半島まで、ユーラシア大陸を横断する帝国でした。干支の始まりは「シルクロード」が関係しているそうです。そして、中国から世界に伝わり、そこの国に馴染み深い動物に置き換わったようです。本当にグローバルなお話ですね。では、どのように干支の12種類の動物が決まったのか？この疑問の答えがこの動画（リンク→）[「干支の話」](#)に紹介されています。（↑QRコード）

学校評価 2023 へのご意見への回答

2学期末に児童・保護者・教師を対象として学校評価を実施しました。回答並びに貴重なご意見をいただきました。ありがとうございます。回答が複数あった内容について、コメントさせていただきます。（詳しい報告は2月にホームページにアップする予定です。）

（1）本校の教育活動への感謝のおことば



「子どもの笑顔(が増えた)」「先生の優しい接し方がありがたい」「的確な生徒指導で感謝している」など、わが校の取組に一定の評価をいただきました。ありがたさがこみ上げてきます。しかしながら、これらの成果は保護者や地域の協力なくしてはありえないので、我々はこれまでの教育活動に甘えることなく、今後とも保護者や地域の皆様のご協力を得ながら、気を引き締めて取り組む所存です。また、「学校のホームページで、学校の様子が見られて、楽しみにしています。子どもからの話だけでは伝わらないこともあるので、先生方からの視点で学校生活を伝えて頂けてありがたく思います。今後もどんどんアップしていただけると嬉しいです。」とうれしいコメントもありました。

（2）登下校のこと

子どもたちの登下校の様子を心配されている声（「**隊列の乱れ**」、「**横断歩道での渋滞**」など）がありました。登下校はすなわち、子どもたちの命（安全・安心）に直結するもので、とても大事です。平素より、地域のみなさん（ボランティア、青パト隊など）の見守り、各町の交通委員、もちろん本校教職員もですが、互いに連携しながら取り組んでいるところです。しかしながら、お仕事等の関係で、大人が常時見守ることは難しいのが実情です。よって、登下校の安全確保については、**学校、本校PTA（主に児童安全部）、行政・関係機関等での緊密な連携で、適切に対応していければと考えています。**



（3）家庭学習（日々の宿題・夏休み等の課題）のこと

宿題の内容や量についてのご意見がありました。「課題の内容の適切性」「量が多い。あるいは少ない。」などです。そもそも家庭学習は「**①授業で学んだことの定着、②自分で考えて、計画的に取り組む力の育成、③主体的な家庭学習の習慣化**」の3つを大きなねらいとしています。学校は発達段階に応じ、内容と量は適切に設定することとしています。子どもたち一人ひとりにとってはその難易度やかける時間は多少違いがあると思いますので、保護者のみなさんには上記趣旨に則り、子どもに寄り添っていただきながら、例えば隣で一緒に取り組むなど、子どもの自主性・成長をサポートしていただければ幸いです。